

とうほん  
東本くん・作

## 2016年度 事業報告書

みやぎ発達障害サポートネットは、発達障害のある子どもの保護者と支援者が集まり、2005年に任意団体による勉強会を始めました。療育を求める声や情報の一元化など、多くのニーズを受けて法人格を取得し、宮城県で第1号の認定NPO法人として国税庁より認定を受け、2015年3月には仙台市の認定を受けました。制度の狭間にあるとされる発達障害児者支援について、たくさんの方が働きかけ、国の制度も動いてきました。しかし、個々のニーズに応えられる場が、まだまだ少ないのが現状です。療育や学びの機会・保護者同士の集まりなど、ここには多くの希望があふれています。

認定NPO法人  
みやぎ発達障害サポートネット

認定 NPO 法人 みやぎ発達障害サポートネット  
代表理事 相馬 潤子



2016年度、皆さまから温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

ここに、「2016年度事業報告書（ダイジェスト版）」をお届けいたします。多くの皆さまのご支援により実施いたしました活動のあらましとなりますが、ご一読くださいますようお願い申し上げます。

2016年度は組織基盤強化3年目（Panasonic NPOサポートファンド助成事業）となり、中期計画推進の2年目でもありました。中期計画第一の目標である「3年間で活動拠点移転を成功させます」を中核に据え、安心して暮らせる社会づくりのために、進化 × 深化に努めてまいりました。本報告書に記載された各事業における様々な取り組みがスパイラルのように作用し合い、成果目標達成につながってきました。3月、活動拠点確保が叶う！と、目標達成に向けた一歩を踏み出せたことも大きな成果となっております。

「助けてくれる人が増えた法人は、さらに安定した運営ができる組織に成長」という職員の言葉（組織基盤強化3年を終えた職員評価より）にもありますように、会員の皆さま、ご寄付をくださった皆さま、様々なところでお世話になりました関係者の皆さま、そして職員・理事が一丸となった1年間でした。

今後とも、ご支援ご協力いただけますことを心よりお願い申し上げます。

2016年12月19日、事業所内に歓声が響き渡った。一般財団法人愛知揆一福祉振興会より「みやぎ社会貢献大賞」の受賞が発表された。「社会福祉のため、公共の利益のため、力を惜しまず活動を続けている団体へ、これまでのねぎらいとこれからの期待をこめてその功績を讃えて贈る」という趣旨を鑑みても、当法人活動が認められた成果といえるだろう。

受賞評価には、

「発達障害の特性理解とその人にあった支援を目指して、保護者を中心に10年間活動を続けてきたことを高く評価します。成人期を見据えた子供の支援事業と、保護者等の支援事業を柱に、スタッフの養成も行い、かつ社会との接点をもつ努力もしておられます。」

と記されていた。1月26日には贈呈式が行われ、賞状には、先駆的な活動に取り組んでいるなど、私たちの活動に添った言葉が綴られており、再び感動に包まれた。賞金100万円は、新活動拠点移転資金として大切に活用するものである。

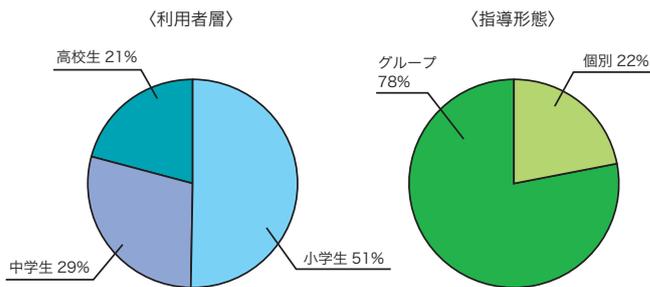
10年間の集大成ともいえる今年度の法人活動であったが、発達障害のある方々が安心して暮らせる社会づくりに寄せられる多くの支援に、深い感謝の思いをもち、先駆的なグループ活動の支援や支援者人材育成講座の取り組みへの期待に応えられるよう、さらなる進化×深化に向け努めていきたいと考える。



## ● 子供支援事業 ●

### 「プリズム」の運営

- 事業を開始してから4年間、利用登録者数は増加傾向にあったが、今年度より新システムを導入してニーズに応えた。支援形態別には、一対一の個別活動が16名、小グループ活動は56名、グループ数は14グループとなっている。昨年と比較すると3グループ増え、中高生の利用が約5割となっている。
- 今年度の新しい取り組みとして、サークル活動（1回/月・希望により参加）とポーションという形態（随時60分/1回）を実施した。サークル活動の利用延べ人数は55名、ポーション利用の延べ人数は30名となっている。
- 月1回のサークル活動は、「普段はこんな人数でゲームとかできないのでとても楽しい。」と話す子もいた。グループ活動とはまた違った関係性を構築できる活動として有効である。



### 「ぬくもりすべいす虹っ子」の運営

#### 1. 児童発達支援事業（未就学児対象）

- 中期計画2016年度の目標は、ほぼ達成することができた。ここ数年の傾向ではあるが、未就学児の利用希望が多く、年間の総利用者数は820名となり、前年の688名から見ても大幅な利用者増となった。秋頃より利用希望の問い合わせも多くなり、現在利用している保護者からも情報が広がり、次年度利用希望の問い合わせが増加している。
- 保護者との時間を毎回十分とすることで、保護者の子育てへの不安や疑問に対応できた。保護者からは「困っていることに対して、すぐに具体的な対処法を教えてもらえることが、自分自身の安心につながっている。」との声が寄せられている。また、保護者は子供へのかかわり方が変わる、子供は親に理解してもらうことが増えて行動が落ち着いてくるといった相乗効果となっている。これは本法人ならではの関係づくりであり、信頼関係にもつながるものである。

#### 2. 放課後等デイサービス事業（主に学齢期の児童対象）

- 月毎利用者数は114名～127名で推移してきた。年間平均利用人数は6.1名で中期計画2016年度の目標8.0名より少ない結果となった。児童発達支援事業併用の多機能型事業所として、早期の出会いに重点を置いたことが背景となるが、利用人数確保に向けた対応が必要と思われる。
- 子供たちが、お互いにかかわりがもてるように活動を工夫した。例えば、共通課題の開始時間やグループを決めるといったことから、スケジュールに「きゅうけい（ひとりで過ごす時間）」を入れることで場所や時間の調整を図り、子供同士のかかわりが多く見られるようになった。
- 中学生は学校生活が大きく変化する中、「虹っ子は安心できる場所」として「子供自身の思いを自分から伝える場所」としての存在でもある。また、短い活動時間の中でも満足感が得られるよう、余暇の時間を十分に確保した。



## ● 保護者等支援事業 ●

### 1. 相談事業

今年度も専門相談、発達相談、10分間相談と相談のニーズに合わせた体制で進めた。年間の相談件数は130件となり、昨年度とほぼ同数になった。相談内容は、障害の特性と接し方、子供の所属機関での対応、進路や就労など多岐にわたっている。また、事業に関する問い合わせも多く、昨年の127件から172件と増加し、SNS等をきっかけにした問い合わせも多い。

### 2. おしゃべりサロン事業

年間利用者数は222名で昨年度とほぼ同じ数になり、平均化した利用者数となった。参加している保護者にとって信頼できる場であり、安心して情報交換ができる場になっている。参加者の中には、複数回参加する方や、個別相談や子供支援事業、セミナーへの参加など次の利用につながる場合が多くみられた。また、発達障害の専門医が参加してくださった回もあり、おしゃべりの中にも支援のポイントをたくさん教えていただき、参加者が多くの気づきを得ることができた。

### 3. 学び合い事業

当法人の学び合い事業には、3点のねらいがある。

- ①保護者、会員の発達障害に関する理解を深め、協働療育を進める
- ②一般市民に発達障害の理解を広める
- ③支援者（職員を含む）の専門性を高める

2016年度の大きなテーマを「その人らしさを育む支援」とし、公開セミナーを開催した。全国的に活躍されている自閉症スペクトラム・発達障害の専門家を招き、ニーズに沿った学びの場を提供することができた。それぞれのセミナーにおいて、会員、保護者をはじめ多くの市民の参加があり、障害理解や支援のあり方を考える機会となった。今後も保護者との協働療育と障害の理解促進の視点から、広く学びの機会を設けていきたい。

#### 【参加者の感想より】

・具体的な子どもへの対応、日常の中でのスキル支援など、とても分かりやすく参考になった。  
・子供が自分らしくいられる方法が具体的に分かって良かった。  
・普段の支援を見直す機会になった。子供の将来を考えて支援していきたい。  
・ずっと話を聞きたかった講師だったので、とてもうれしかった。前向きに元気になった。

### 4. 情報発信事業

中期計画の目標である「信頼を得るNPO法人として、効果的な情報収集や情報発信を積極的に行い、影響力を高める」の達成に向け、情報発信事業を担当する職員中心に活躍できた1年間だった。

日本郵便年賀寄付金配分事業の一環として、ホームページの内容を充実させ、10月にリニューアルした。

設立以来、認定NPO法人として情報開示に努めてきた。情報発信ツールを活用し「アドボカシーできる職員」を目指したが、それ以上に信頼される法人として確実な歩みを進めてきた。各担当の思いをこめた発信はアドボカシーにつながっている。またFacebookのアクセス数が、年間21,271回となっている。これは昨年度の倍以上のアクセス数であり、Live情報を提供している存在を強く印象づけている。



## 5. ボランティア・職員研修

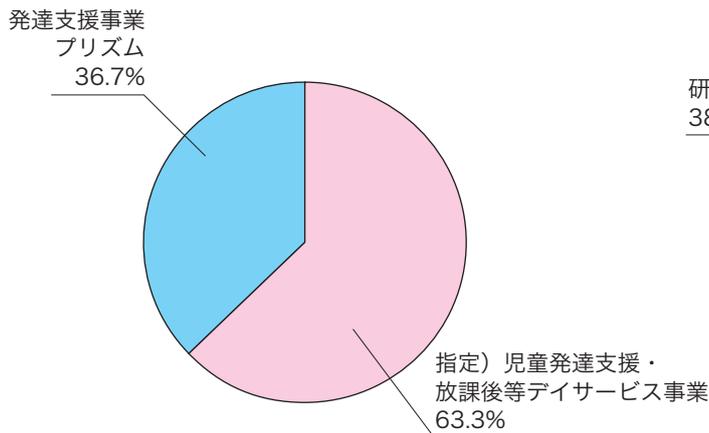
(ボランティア) 子供支援事業及び保護者等支援事業において11名のボランティアを受け入れ、1,217時間の協力を得た。総時間数は昨年度の998時間に比べ219時間増えた。

(職員研修) 事業中心の視点から法人組織を考えた視点へ、そして市民に向けてアドボカシーできる人材育成を目指したい組織の姿として職員研修を実施し、そこから得る学びの質、量ともに充実し、市民活動を考えるよい機会ともなった。大きな成果は、当法人作成の教材テキストを活用した自前の講座を開設したことにある。講師、グループのファシリテーターを職員が担い、参加者が教材づくりを実践する講座だった。

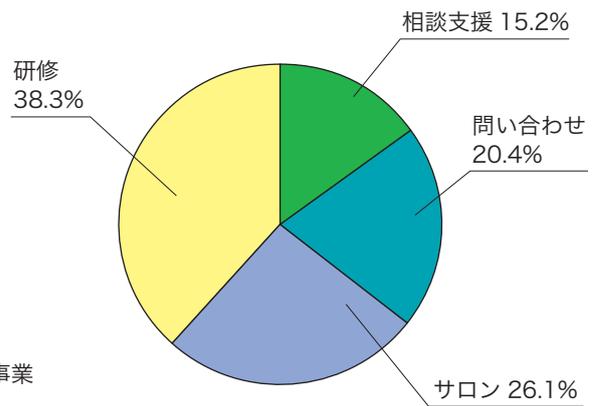


### 事業の利用状況

〈子供支援事業〉



〈保護者等支援事業〉

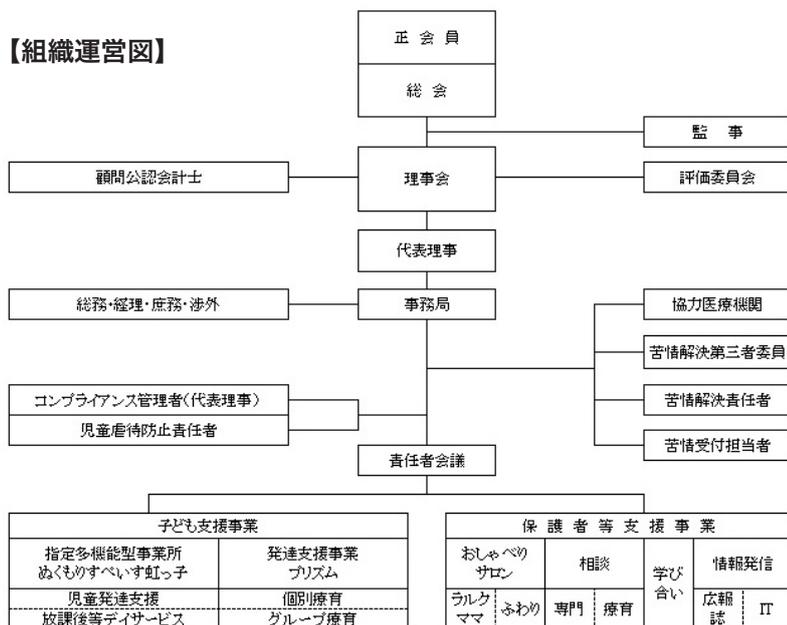


## 法人活動の総括

「石にかじりついてでも、3年後実現したいことは何か。」2年前、中期計画策定講師より発せられた問いかけに、全職員の思いが一致するまで時間はかからなかった。「3年間で活動拠点移転を成功させます。」を一番に掲げ、画期的な活動になった。歩み出す一步一步が確実に現実のものとなった起因は何か。一つ目は、当法人活動に賛同し、共に社会貢献を考えていきたいという申し出があり、プロボノチーム設立に至ったこと。二つ目は、活動拠点新築助成の申請が採択され、資金の確保と調達計画が可能になったこと。しかし一朝一夕に可能なことではなく、根底には、法人設立以来、発達障害のある方々が大切な一人として存在する社会を願い活動を進めてきた実績と、2014年から3年間取り組んできた組織基盤強化の成果があった。

2016年度は、会員、保護者、関係機関からの問い合わせ、大学からの協力依頼、セミナー等に寄せられる市民の言葉から信頼を深めつつあることを強く感じた活動であった。この信頼関係の構築が、法人活動への賛同を呼び、共に歩みたいという法人への働きかけにつながり、活動拠点新設という大きな成果となって現れたものと受けとめている。

### 【組織運営図】



## アドボカシー（提言）

- ①パワーアップした情報発信▶会報誌における職員からの情報発信は、活動内容のみならず、「発達障害理解に関する内容をシリーズ化」して発信しました。また、ホームページをリニューアル（平成28年度日本郵便年賀寄付金配分事業）し、ご覧になった方が「安心して情報を得られるように見える化」を図りました。このような情報発信により、広く啓発活動を進めることができました。
- ②充実したセミナー開催▶「その人らしさを育む支援」というテーマのもと、仙台市内においてセミナーを4回開催しました。障害の特性理解と自分らしく輝ける社会づくり推進への意識向上を図りました。併せて、各種研修会等での講話を通して、自閉症・発達障害の特性理解と支援について啓発・発信を行いました。
- ③平成28年度仙台市障害者等保健福祉基礎調査の聴き取り調査への協力▶標記調査に臨み、発達障害児への早期の発達支援の充実と継続（一貫）した支援の重要性等をアドボカシーしました。
- ④市民セクター全国会議2016にて組織基盤強化の発信▶「豊かな市民社会づくりに企業のお金を活かすには？」をテーマに、Panasonic NPOサポートファンドの助成を受けた3年間の取り組みと成果を伝え、企業による市民活動への助成の有効性と市民社会の基礎づくりをアドボカシーしました。

### これまでに協力いただいた企業・団体

さまざまな方法を通して市民の方々、企業・団体から、書き損じハガキや文具・遊具の提供、数大学からの学生ボランティアなどの支援を受けています。

一般財団法人愛知揆一福祉振興会、イーパーツ、イトス株式会社、株式会社菊新工務店、公益財団法人キリン福祉財団、公益財団法人損保ジャパン記念財団、財団法人愛恵福祉支援財団、地域創造基金さなぶり／地福寺両国回向院、東北労働金庫ろうきん地域貢献ファンド、日本財団、日本社会福祉弘済会、

日本郵便株式会社、PanasonicNPOサポートファンド、平野印刷所、三井住友海上火災保険株式会社、みやぎNPO夢ファンド、宮城県共同募金会、みやぎ生協こ〜ぼほっとわ〜く基金、みんなファンド、明治製菓株式会社（敬称略・五十音順）

### 連携機関

アスペ・エルデの会、子どもの放課後支援をすすめる会、日本発達障害ネットワーク（JDDネット）、発達支援ひろがりネット、放課後ケアネットワーク仙台、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、宮城教育大学（敬称略・五十音順）

## 事業評価

大久保朝江氏

認定NPO法人 杜の伝言板ゆるる 代表理事

これまでに宮城県NPO活動促進委員や内閣府共助社会づくり懇談会委員等を務め、現在、日本NPO学会理事ほか非営利法人の理事や評議員を務める。

「ぬくもりすぺいす虹っ子」の運営を見ると、放課後等デイサービスの利用が昨年より少なかったが、同様の事業者が全市的に増加した影響と思われる。一方で未就学児の利用は昨年より大きく増加したことは、早い段階からその子にあった環境を作ることの大切さを意識する保護者が増えたということであり、発達障害サポートネットが常に訴えていることと一致する変化でしょう。

また、福祉手帳、受給者証を持たなくても利用できる「プリズム」は、新システムを導入したこともあり、コミュニケーション力が弱い子どもたちの小グループ活動への参加が増え、中高校生との信頼関係が深まるなど、着実にその成果を上げています。その結果、保護者との信頼も深まり、「障害告知」の相談から「告知」、安定した関係性に繋がっているという、親子にとって大事な場面にも貢献しているといえます。

これまでも利用希望者に対応しきれない施設環境であることから、3年越しで全職員総力を挙げて取り組んできた新活動拠点の確保が実現される見通しがついたことは大きな成果です。そして拠点に続く、人材の育成は、法人独自に作成したテキストを使って職員自らが講師となる「自前の講座」を開設したことは、今後の事業運営の基盤が整いつつあるということでしょう。この一年の成果は、単年度でできるものではなく、ここ数年にわたる組織運営の見直しに全職員が一丸となって取り組んできたことの結果であると評価します。

発達障害を持った一人の成長を継続して応援していくことは、法人の希望であり、当事者の願いでもあると思います。未就学児が増え、中高校生まで継続して利用している現状が証明しています。施設も人材も準備できる2017年度は、さらなる発展に期待します。

# 会計報告

## 貸借対照表

2017年3月31日 現在

科目	金額
<b>I 資産の部</b>	
1. 流動資産	
流動資産合計	16,024,781
2. 固定資産	
固定資産合計	1,847,483
資産合計	17,872,264
<b>II 負債の部</b>	
1. 流動負債	
流動負債合計	790,007
負債合計	790,007
<b>III 正味財産の部</b>	
1. 指定正味財産	
前期繰越一般正味財産	318,029
当期一般正味財産増減額	578,632
指定正味財産合計	896,661
2. 一般正味財産	
前期繰越一般正味財産	16,176,343
当期一般正味財産増減額	9,253
一般正味財産合計	16,185,596
正味財産合計	17,082,257
負債及び正味財産合計	17,872,264

## 活動計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日まで

科目	金額
<b>I 一般正味財産増減の部</b>	
1. 経常収益	
(1) 受取会費	1,534,000
(2) 受取寄付金	2,346,957
(3) 受取助成金等	3,395,072
(4) 事業収益	31,387,891
(5) その他収益	1,050,602
経常収益計	39,714,522
2. 経常費用	
(1) 事業費	
① 人件費	29,243,411
② その他経費	9,800,817
事業費計	39,044,228
(2) 管理費	
① 人件費	51,806
② その他経費	609,235
管理費計	661,041
経常費用計	39,705,269
当期経常増減額	9,253
当期一般正味財産増減額	9,253
前期繰越一般正味財産額	16,176,343
次期繰越一般正味財産額	16,185,596
<b>II 指定正味財産増減の部</b>	
(1) 受取寄付金	578,626
(2) 受取利息	6
指定正味財産計	578,632
当期指定正味財産増減額	578,632
前期繰越指定正味財産額	318,029
次期繰越指定正味財産額	896,661
<b>III 正味財産期末残高</b>	17,082,257

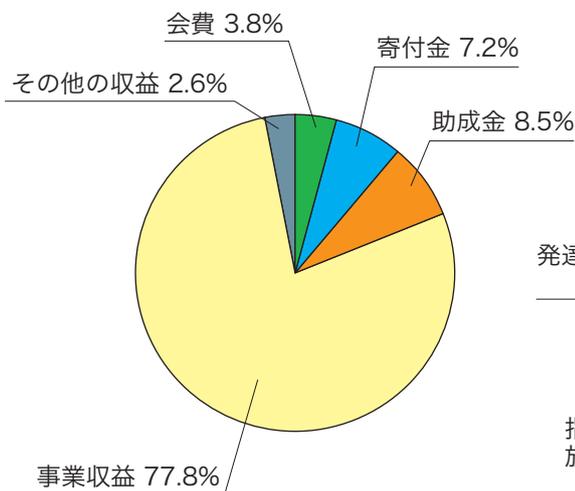


### 会計監査について

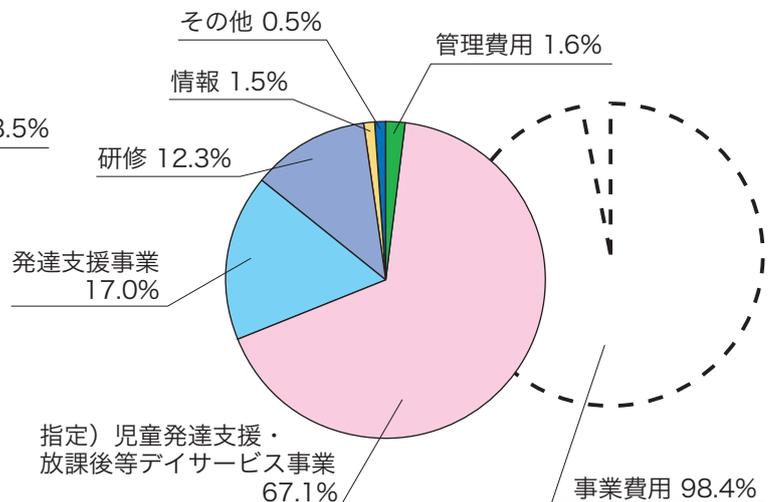
みやぎ発達障害サポートネットワークでは、認定NPO法人NPO会計税務専門家ネットワーク作成の「NPO法人のための業務チェックリスト」を用いて、監査を受けています。

●掲載されている会計書類はダイジェスト版です。

### 【収 益】



### 【費 用】



# こころは 自分が好きに なれる場所



みやぎ発達障害サポートネットでは  
新活動拠点確保のための応援金を募集しています。

一口 3,000 円から

送金先：七十七銀行 名掛丁支店

普通預金 口座番号：9169687

口座名義：特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネット

認定番号「仙台市（H26 市市市）指令第 74 号」

認定 NPO 法人への寄付には税制上の優遇措置があります。

詳しくは国税庁 HP 又は市町村の HP をご覧ください。

認定 NPO 法人 みやぎ発達障害サポートネット

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1-4-1

TEL：022-265-5581 / FAX：022-352-7088 / mail: mddsnet@yahoo.co.jp

HP: <http://mddsnet.jp/>

